

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	人間科学コース(社会学専門分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下の学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>人間科学コースでは、人間の行動・思想・文化、思考・創造・歴史・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする人間科学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような人間科学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、人間科学を構成する3つの専門分野における、分野全般を概観する「社会学概論A」、「哲学概論A・B」、「地理学概論A・B」を選択し学ぶことが推奨される。2年次には、専門分野の基本的考え方や基礎技術を習得するための「社会調査演習」、「社会統計学1」、「論理学」、「人間学基礎講義」、「地域調査基礎演習」、「地域調査基礎実習」などを学ぶ。3年次には、さらに高度な方法論や知識を修得するために「社会学調査実習」、「西洋古代中世哲学特殊講義A」、「人間学特殊講義」、「地域調査応用演習」、「地域調査応用実習」などを学ぶ。(ただし、経過選択を可能としているので、各自の到達水準によって、履修時期を1年次から主として3年次までの間で、幅をもたせて設計している授業科目がある。)4年次には、「卒業論文演習A・B」での指導を受け、自分の研究を「卒業論文」にまとめる。これらに加え、2～4年次を通じて、人間科学および他の人文諸学の領域の基礎知識や最新トピックを講義および演習を通じて学ぶ。</p>	<p>人間科学を構成する各専門分野の学習を通じて、人間・社会・環境についての総合的・多面的な理解を得ることができる。</p> <p>自ら課題を設定し、その解決のために適切な方法論を構築し、合理的な結論を導くことができる。</p> <p>既存の資料や文献の批判的検討を通じて独自の分析視点を構築できる。</p> <p>現代社会が抱える様々な問題に対してフィールドワークや資料分析、文献理解を通じて的確にアプローチすることができる。</p> <p>対象に応じて質的・計量的な分析方法を取捨選択し、適切な分析をおこなうことができる。</p> <p>情報収集や結果について、口頭や文書などで報告することができる。</p>

専門分野のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期				
11009	社会学概論A	・社会学としての社会学の特徴を理解する。 ・社会学の基礎理論を学ぶ。 ・社会学の対象と方法について、基礎的知識を持つ。 ・社会学の今日的課題に関心を持つ。	1		*	◎			
41101	社会学概論B	・社会調査の目的と歴史、社会調査の倫理について学ぶ。 ・さまざまな社会調査の種類とそれぞれの方法が持つ長所と問題点を理解する。 ・質問紙調査を中心に、社会調査の設計から実施、収集したデータの分析までの流れを学ぶ。 ・自分の目的にあった種類の社会調査を選択し、調査の企画・計画を立案できるようになる。	2	*				◎	
41102	社会統計学1	・記述統計の技法を学ぶ。 ・推測統計の考え方を学ぶ。 ・社会調査データの基礎的な分析法を身につける。	2		*		○	○	◎
41103	社会統計学2	・多変量解析(特に重回帰分析)の方法を学ぶ。 ・変数間の関連性の指標について理解する。 ・社会調査データの分析法を身につける。	2,3		*		○	○	○
41104	社会学調査法	・社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく方法を理解する。 ・サンプリングの諸方法、質問文・調査票の作り方、調査の実施方法を理解する。	2,3		*			○	◎
41105	社会学脱史	・社会学が専門領域として確立された歴史的背景を理解する。 ・古典的な社会学理論の展開を学ぶ。 ・社会学理論の現代的展開の方向について、見直しを持つ。	2	*		◎			
41106	社会変動論	・社会集団や人間行動の変化を知る方法を学ぶ。 ・これまでの社会変動研究の成果を学ぶ。 ・具体的な社会変動のプロセスを理解する。 ・社会変動の方向を予測し、その影響を客観的に議論できるようになる。	2,3	*		○			
41107	経典社会学	・計量的な社会学のこれまでの成果を学ぶ。 ・計量分析のアウトプットを読めるようになる。 ・分析結果を適切に解釈し、議論を行えるようになる。 ・公的統計を取り扱う方法を身につける。	2,3		*	○			

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	人間科学コース(社会学専門分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>人間科学コースでは、人間の行動・思想・文化、思考・創造・歴史・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする人間科学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような人間科学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、人間科学を構成する3つの専門分野における、分野全般を概観する「社会学概論A」、「哲学概論A・B」、「地理学概論A・B」を選択し学ぶことが推奨される。2年次には、専門分野の基本的考え方や基礎技術を習得するための「社会調査演習」、「社会統計学1」、「論理学」、「人間学基礎講義」、「地域調査基礎演習」、「地域調査基礎実習」などを学ぶ。3年次には、さらに高度な方法論や知識を修得するために「社会学調査実習」、「西洋古代中世哲学特殊講義A」、「人間学特殊講義」、「地域調査応用演習」、「地域調査応用実習」などを学ぶ。(ただし、経過選択を可能としているので、各自の到達水準によって、履修時期を1年次から主として3年次までの間で、幅をもたせて設計している授業科目がある。)4年次には、「卒業論文演習A・B」での指導を受け、自分の研究を「卒業論文」にまとめる。これらに加え、2～4年次を通じて、人間科学および他の人文諸学の領域の基礎知識や最新トピックを講義および演習を通じて学ぶ。</p>	<p>人間科学を構成する各専門分野の学習を通じて、人間・社会・環境についての総合的・多面的な理解を得ることができる。</p> <p>自ら課題を設定し、その解決のために適切な方法論を構築し、合理的な結論を導くことができる。</p> <p>既存の資料や文献の批判的検討を通じて独自の分析視点を構築できる。</p> <p>現代社会が抱える様々な問題に対してフィールドワークや資料分析、文献理解を通じて的確にアプローチすることができる。</p> <p>対象に応じて質的・計量的な分析方法を取捨選択し、適切な分析をおこなうことができる。</p> <p>情報収集や分析、考察の結果について、口頭や文書などで報告することができる。</p>

専門分野のカリキュラム						
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期	
41108	集団・組織論	・社会的な集団・組織論のこれまでの成果を学ぶ。 ・各種の集団や組織を研究する方法を学ぶ。 ・社会学における集団・組織論の位置づけを理解する。 ・日常生活における出来事を集団・組織論的な観点から考える態度を涵養する。	2,3		*	○
41109	応用社会学	・基礎研究と応用研究の区別を理解する。 ・基礎研究を応用して、社会現象の予測に役立てる方法を学ぶ。 ・応用社会的観点に立って、社会問題について議論を行えるようになる。	2,3	*		○
41110	社会理論	・社会現象の因果的説明の方法を学ぶ。 ・社会理論の文献を読めるようになる。 ・社会理論における諸問題に関する議論が行えるようになる。	2,3		*	○
41111	福祉国家論	日本における社会計画の歴史を概観しながら、社会計画のさまざまな対象と方法について理解する。さらに、社会計画の限界や今日の問題についての認識を深める。そして、現代社会における計画の立案・実施・評価という社会計画の実践についての基本的知識を身につける。	3,4		*	○
41112	社会計画論	福祉国家の歴史的発展を学ぶことを通じて、福祉国家の理念と基本的な価値について理解を深める。さらに、現代の福祉国家が抱えている諸問題を、構造的に理解する。そのうえで、今後の福祉国家のあるべき姿について、自分なりに考察を展開することをめざす。	3,4	*		○
41113	世界経済論A	・20世紀以降の世界経済の展開と概要を、先進国と途上国の関係から学ぶ。 ・世界経済の展開というマクロな動きが、企業活動や人々の生活、各国政府といったミクロな部分に与えた影響と、両者の相互関係について学ぶ。	3,4	*		○
41114	世界経済論B	・発展途上国経済の現状について学ぶ。 ・世界経済概況を掴むための統計の入手方法と読み方を理解する。 ・政府セクターと民間セクターそれぞれの発展途上国支援やBOPビジネスについて理解する。	3,4		*	○

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	人間科学コース(社会学専門分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>人間科学コースでは、人間の行動・思想・文化、思考・創造・歴史・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする人間科学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような人間科学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、人間科学を構成する3つの専門分野における、分野全般を概観する「社会学概論A」、「哲学概論A・B」、「地理学概論A・B」を選択し学ぶことが推奨される。2年次には、専門分野の基本的考え方や基礎技術を習得するための「社会調査演習」、「社会統計学1」、「論理学」、「人間学基礎講義」、「地域調査基礎演習」、「地域調査基礎実習」などを学ぶ。3年次には、さらに高度な方法論や知識を修得するために「社会学調査実習」、「西洋古代中世哲学特殊講義A」、「人間学特殊講義」、「地域調査応用演習」、「地域調査応用実習」などを学ぶ。(ただし、経過選択を可能としているので、各自の到達水準によって、履修時期を1年次から主として3年次までの間で、幅をもたせて設計している授業科目がある。)4年次には、「卒業論文演習A・B」での指導を受け、自分の研究を「卒業論文」にまとめる。これらに加え、2～4年次を通じて、人間科学および他の人文諸学の領域の基礎知識や最新トピックを講義および演習を通じて学ぶ。</p>	<p>人間科学を構成する各専門分野の学習を通じて、人間・社会・環境についての総合的・多面的な理解を得ることができる。</p> <p>自ら課題を設定し、その解決のために適切な方法論を構築し、合理的な結論を導くことができる。</p> <p>既存の資料や文献の批判的検討を通じて独自の分析視点を構築できる。</p> <p>現代社会が抱える様々な問題に対してフィールドワークや資料分析、文献理解を通じて的確にアプローチすることができる。</p> <p>対象に応じて質的・計量的な分析方法を取捨選択し、適切な分析をおこなうことができる。</p> <p>情報収集や結果の分析、考察の結果について、口頭や文書などで報告することができる。</p>

専門分野のカリキュラム						
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期	
41115	社会調査演習	・社会調査を実際に行えるレベルに到達することを目標に、そのための基礎的方法を身につける。 ・調査票やデータの取り扱いについて、適切な態度や方法を身につける。 ・データの入手、データの処理、分析、報告、データの保存までの一連の過程を実習する。 ・協同して作業をする方法を学ぶ。	2	*		◎
41116	理論社会学演習A	・理論社会学の入門レベルの知識、思考力を獲得する。 ・理論社会的な思考と現実の社会的出来事とがどのように関連しているか、理解する。	2,3	*	*	○
41117	理論社会学演習B	・社会学の理論的観点から、社会現象を説明するスキルを獲得する。 ・社会学の理論的諸問題について、協働して、文献を読み、討論することができるようになる。 ・社会学理論の可能性と限界について、明晰な思考ができるようになる。	3,4	*	*	○
41118	社会変動論演習A	・変動の社会学の入門レベルの知識、思考力を獲得する。 ・社会の変動に関連するデータの探し方、読み方、データの意味するものを解釈する方法を学ぶ。	2,3	*	*	○
41119	社会変動論演習B	・社会変動論の観点から、社会現象を説明するスキルを獲得する。 ・先行研究の整理、新たな概念化、データによる検証といった実証研究の方法を学ぶ。 ・社会変動の予測について、その可能性と限界を明晰に議論できるようになる。	3,4	*	*	○
41120	経験社会学演習A	・経験社会学の領域の入門レベルの知識、スキルを獲得する。 ・データの出処を確認することと、どのような社会調査枠により実施された調査なのかを確認することの重要性、グラフ読解上の注意点、データを適切に解釈するための方法について正しい知識を獲得する。	2,3	*	*	○
41121	経験社会学演習B	・具体的な社会現象を設定し、経験的なデータに基づきながら、理論を導出する過程を学ぶ。 ・経験的な社会学研究を進めるための学問的な議論のスキルを習得する。 ・この領域の文献読解能力を高める。	3,4	*	*	○

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	人間科学コース(社会学専門分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)		コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)									
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下の学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 		<p>人間科学コースでは、人間の行動・思想・文化、思考・創造・歴史・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする人間科学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような人間科学コースの学習成果を上げた者とする。</p>									
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)		コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)									
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、人間科学を構成する3つの専門分野における、分野全般を概観する「社会学概論A」、「哲学概論A・B」、「地理学概論A・B」を選択し学ぶことが推奨される。2年次には、専門分野の基本的考え方や基礎技術を習得するための「社会調査演習」、「社会統計学1」、「論理学」、「人間学基礎講義」、「地域調査基礎演習」、「地域調査基礎実習」などを学ぶ。3年次には、さらに高度な方法論や知識を修得するために「社会学調査実習」、「西洋古代中世哲学特殊講義A」、「人間学特殊講義」、「地域調査応用演習」、「地域調査応用実習」などを学ぶ。(ただし、経過選択を可能としているので、各自の到達水準によって、履修時期を1年次から主として3年次までの間で、幅をもたせて設計している授業科目がある。)4年次には、「卒業論文演習A・B」での指導を受け、自分の研究を「卒業論文」にまとめる。これらに加え、2～4年次を通じて、人間科学および他の人文諸学の領域の基礎知識や最新トピックを講義および演習を通じて学ぶ。</p>		人間科学を構成する各専門分野の学習を通じて、人間・社会・環境についての総合的・多面的な理解を得ることができる。	自ら課題を設定し、その解決のために適切な方法論を通じて、人間・社会・環境についての総合的・多面的な結論を導くことができる。	既存の資料や文献の批判的検討を通じて独自の分析視点を構築できる。	現代社会が抱える様々な問題に対してフィールドワークや資料分析、文献理解を通じて的確にアプローチすることができる。	対象に応じて質的・計量的な分析方法を取捨選択し、適切な分析をおこなうことができる。	情報収集や分析、考察の結果について、口頭や文書などで報告することができる。				
専門分野のカリキュラム											
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期						
41122	社会学調査実習	・中規模な社会調査を実際に行うチームの一員として作業ができる能力を獲得し、経験を積む。 ・調査票の作成、データの取り扱いや、調査対象者などの外部の人々との接し方について、高い専門的なセンスを身につける。 ・先行研究の調査、仮説構成、質問文の作成、調査票の作成などについて、チームで行うためのスキルを獲得する。 ・データ分析、プレゼンテーション、調査対象者へのお礼と調査から得られた知見の社会的な還元、報告書の作成まで、着実に作業を遂行する能力を獲得し、経験を積む。 ・失敗学的視点の応用を習慣化する。	3	*	*	○	◎	◎	○	◎	◎
41123	社会学基礎演習	・社会的な見方、思考と、我々がすでにもっている常識とを明確に区別できるようになる。 ・社会現象についての常識的な見方に対して、社会的な見方を対置できるようになる。 ・プレゼンテーションの方法を学び、発表・発言することに積極的な態度を身につける。	2		*	○					
31001	卒業論文演習A	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野における研究課題の設定、先行研究の調査・読解の適切な方法を身につける。 ・学術論文の形式を理解する。	4	*			◎				
31002	卒業論文演習B	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野において適切な研究計画を遂行するための技法、考え方を身につける。 ・得られた情報を総合的に考察し、研究成果を的確に報告できるようになる。	4		*		◎				
31003	卒業論文	・学術論文の習作と位置づけられる論文を執筆することで、自らの研究成果を公表する技法を学ぶ。 ・人文学的学問において要求される論理性や科学性の質、水準を理解し、それを充たすために必要な論述の条件について知る。	4		*		◎				
11001	人文学序説1	・人文諸学の専門分野で学ぶ内容の概要を把握する。 ・人文学類における学問の全体をイメージできるようにする。	1	*		◎					
11002	人文学序説2A	・人文学類における学問の方法を学ぶ。 ・ラボラトリ(実験)、テキスト(文献読解)、サーベイ(調査と分析)、フィールド(野外実習・調査)という方法の基礎的な知識を理解する。	1		*	◎					

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	人間科学コース(社会学専門分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)		コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)							
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下の学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 		<p>人間科学コースでは、人間の行動・思想・文化、思考・創造・歴史・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする人間科学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような人間科学コースの学習成果を上げた者とする。</p>							
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)		コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)							
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、人間科学を構成する3つの専門分野における、分野全般を概観する「社会学概論A」、「哲学概論A・B」、「地理学概論A・B」を選択し学ぶことが推奨される。2年次には、専門分野の基本的考え方や基礎技術を習得するための「社会調査演習」、「社会統計学1」、「論理学」、「人間学基礎講義」、「地域調査基礎演習」、「地域調査基礎実習」などを学ぶ。3年次には、さらに高度な方法論や知識を修得するために「社会学調査実習」、「西洋古代中世哲学特殊講義A」、「人間学特殊講義」、「地域調査応用演習」、「地域調査応用実習」などを学ぶ。(ただし、経過選択を可能としているので、各自の到達水準によって、履修時期を1年次から主として3年次までの間で、幅をもたせて設計している授業科目がある。)4年次には、「卒業論文演習A・B」での指導を受け、自分の研究を「卒業論文」にまとめる。これらに加え、2～4年次を通じて、人間科学および他の人文諸学の領域の基礎知識や最新トピックを講義および演習を通じて学ぶ。</p>		<p>人間科学を構成する各専門分野の学習を通じて、人間・社会・環境についての総合的・多面的な理解を得ることができる。</p> <p>自ら課題を設定し、その解決のために適切な方法論を構築し、合理的な結論を導くことができる。</p> <p>既存の資料や文献の批判的検討を通じて独自の分析視点を構築できる。</p> <p>現代社会が抱える様々な問題に対してフィールドワークや資料分析、文献理解を通じて的確にアプローチすることができる。</p> <p>対象に応じて質的・計量的な分析方法を取捨選択し、適切な分析をおこなうことができる。</p> <p>情報収集や分析、考察の結果について、口頭や文書などで報告することができる。</p>							
専門分野のカリキュラム									
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期				
11003	人文学序説2B	・人文学類における学問の方法を学ぶ。 ・人文学の基礎的素養としての歴史学について、歴史資料の捉え方、研究の課題、研究方法の基礎的な知識を理解する。	1		*	○			
11004	人文学序説2C	・人文学類における学問の方法を学ぶ。 ・人文学の基礎的素養としての言語学・文学について、基本的な視座や研究方法についての基礎的な知識を理解する。	1		*	○			
11005	学類共通英語1	・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。 ・英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。	2		*		○		◎
11006	学類共通英語2	・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。 ・「学類共通英語1」より高いレベルで、英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。	3	*			○		◎